

野尋禾の
ついのべ
その六
(2010/02)



まえがき

”野尋禾のついのべ その六 (2010/02)”です。
2010年2月に発表したついのべをまとめました。

第六弾まできて、ふと気がついたこと——”この作品はフィクションです”と書いてない。

書かなくてもわかるだろう、という意識があったからです。

しかし、よく考えてみると、わからない読者がいないとは言いきれない。

微妙な虚実の間をついた作品は、ひょっとすると真実を言い当てているかもしれない。

いや、そんなことはあるわけがない……たぶん。

しかし、本当にそんなことがあった場合、作者はなんらかの嫌疑をかけられる可能性がある。

それは、困ったことになりそうだ。

ここは、やはり、高らかに宣言するべきだ。

本コンテンツに収録された作品はフィクションです。

実在する人物、団体名などは便宜上、用いたものです。

実在する人物、団体になんら影響の及ぶものではありません。

ご了承ください。

あなたの暇を潰す柔らかいハンマー、または曲がるペンチ、それとも……

収録作品はすべて、twitter で発表されたものですが、修正を加えたものもあります。

本ファイルに収録された作品の著作権は、野尋禾／nohironogi／佐々木秀博に帰属します。

2010/08/01

HP : http://www.geocities.jp/nohiro_nogi/

mail : nohironogi@gmail.com

Twitter : @nohironogi

#kaibun

#twnovel

仇に利——かかる雪。
「よくお聞き、百合」
「御内府にての騒動、どうも……」
「もう……」
「堂々、その手に不意」
名残り雪——記憶よ、消ゆるか。
「雁に北か……」

2010/02/01 (Mon)

#twnovel

冷たい雨の音が変わる。
鈍くなり、やがてその音も絶えた。
音ならぬ音——静寂の音。
雪になったようだ。
夜明けまでやまないらしい。
久しぶりに積もるだろう。
もう積もりはじめているだろうか。
まだ窓の外を見ていない。
まだこの雪の色を見ていない。
白い雪か、黒い雪、赤、緑、青……

2010/02/01 (Mon)

#twnovel

積雪のため、首都高全線が通行止め。
物流は深刻な影響を被ることになる。
こんなときなのに、除雪作業車の都合がつかない。
予算がつかないのだ。
急遽、ツイッターでボランティアを募集。
純白のハイウェイに、腕自慢がやってくる。
作業開始の合図。

いっせいに、雪玉を転がしはじめた。

2010/02/02 (Tue)

#twnovel

雪は天から送られた手紙である——
音もなく降り積もる六角形の結晶は、遠い天空の声を地上に伝えてくれる。
「俺おれ……」

2010/02/02 (Tue)

#kaibun

#twnovel

今、しとどに濡れ、
「最悪だ、ぽん太。雪だるま——気になり、泣きいるとは……」
師と向かいあい、合い、噛む。
「齢はとる」
「いきなり……なに……」
きまる——抱き湯たんぽ。
抱く。
「愛されぬ……」
「二度としまい……」

2010/02/02 (Tue)

#kaibun

#twnovel

「うまいよ。いいね——烏賊？」
「わたしのくに、釧路よ。もし——」
と、粉雪、舞う。
吠える。
「ベタな顔かな？」
「食べる？ 恵方巻き」
「湯女、今年もよろしく！」
「肉の下……若いね！」
「いい、よ……今……う！」

2010/02/03 (Wed)

#kaibun

#twnovel

「ち……うは……苦！」
ふ、と、そは匂うもの。
公家なら、尚、匂う。
「いかんせんか……」
言う鬼。
おなら嘆くのも——鬼は外、福は内……

2010/02/03 (Wed)

#twnovel

夜明けの最初の光が、常ならぬ生命を産んだ。
無邪気な幼い魂は、瞬く間に成長した。
幼い鯉は、本能に衝き動かされ、滝を登り、竜に化身し、昇天した。
竜は力に酔った。
天も地も、分け隔てなく蹂躪した。
やがて、齢を経て、龍となった。
青い鱗の龍を、人はこう呼んだ——朝青龍、と。

2010/02/04 (Thu)

#twnovel

天地を乱す比類なきもの——朝に生まれし、青き龍。
その横暴は、目に余った。
ついに、天帝より、捕縛の命が下る。
暴龍、酒に酔ったところを縛られた。
夢うつつのまま、遙か西の島国の地底に封印。
ちなみに、これに用いられた綱は、縛られると横たわるしかないため、横綱と呼ばれた。

2010/02/04 (Thu)

#twnovel

朝に生まれし青き龍。
西の果ての島国に封印されてから、劫の年月が過ぎ去った。
ようやく呪縛を解き、魂魄を地上へ遊ばせた。
すでに神仙の世ではない。
権勢を誇るものの息子にとりついた。
あるとき、同じ匂いのする若者を見つけた。
「マーリンか。我が名はアーサー。ともに来るか？」

2010/02/04 (Thu)

#twnovel

「先生がやめて、寂しくて……僕、もう、戦えないよ！」
「弱音？ らしくないわね」
「先生がいたから、僕はヒールでいられたんだ。でも、もう限界だよ」
「……」
「だから、僕も卒業することにしたんだ。いいよね？」
「もう、この子は……」
「” ひらり”、毎朝みてたよ。内館先生！」

2010/02/04 (Thu)

#kaibun
#twnovel

あまねく掟しらぬ幼女に”ポ！”の絵。
宇野”怪我だよ”宗介、遺憾ですんだダンス。
「電界、消す？ 嘘よ、だ！」
「崖の上のポニョ——慈雨よ、濡らして……」
「記憶ね？」
「まあ……」

2010/02/05 (Fri)

#twnovel

「あなたって、嘘つきね」
「君もね。そして、君は嘘つきが好き」
「違うわ！ あなたが、好きなのよ」
「ダウト！」
「ひどい！」
——こんな会話を愉しみながら、僕は溺れていった。
もう戻れない——
この味を知った今となっては——
「男って、本当に肉じゃがが好きよね」
「おかわりっ！」

2010/02/06 (Sat)

#twnovel

夢があった。
誰もが笑う、子供じみた夢だ。

大人になって諦め、忘れていた。
その本の広告を目にしたとき、それを思い出した——
”夢をかなえるツイッター”。
その瞬間、とり憑かれた——夢に。
それから、ツイッター三昧——
違う！
これも違う。
どれだ？
夢をかなえるツイッターは？

2010/02/06 (Sat)

#kaibun
#twnovel

「過敏ね」
「喜久子」
「ん？」
「検問もかな。せきとめやがる。さかさまだ……ぱっ、と突破だ！」
「まさか……」
「猿が……」
「やめとき！ 背中、もんもん……」
「建国記念日、か……」

2010/02/08 (Mon)

#kaibun
#twnovel

「予感……マジカルだ！」
「ペルー、凝りを吸うリプトンなんて……」
「およそ迂闊——つか、嘘よ！ 汚点！」
「——と、プリウスをリコール」
「ペダルか？ 自慢かよ」

2010/02/09 (Tue)

聖バレンタインの日、そして、仕事人の死。(2010/02/11 - 2010/02/20)

#kaibun
#twnovel

「いざ！」
うわべだけ渡すバトン——不可避。
「乗んね？」
聞く。
「来んけ？」
誘う（嘘さ……）。
建国記念の日——花粉、飛ばす。
「たわけだべ！」
「わ！うざい……」

2010/02/11 (Thu)

#twnovel

「亡くなった作家さん、あなたの患者さんでしたよね？」
「うん」
「訃報に病名が書いてませんね」
「え、ああ、かぜだよ」
「まあ、こじらせて？」
「うん。まあね」
「素朴で、風のような人でしたけど」
「うん」
妻といえど、明かせないこともある。
患者が風のように消えたなどとは……

2010/02/11 (Thu)

#twnovel

彼／彼女は、リコール騒動から生まれた。
メーカーは、ブレーキの一瞬の遅延に悩まされた。
完成したのは、操縦者に先行するブレーキ——空気を読むブレーキ。
もはや、いち装置ではない。
マン・ビークル・インターフェイス——開発コード”ナイト2010”。
「こんにちわ、マイケル」

2010/02/13 (Sat)

#twnovel

その発祥は、太古の昔、ギリシャ——つわものどもが、集い、競う。
近代に入り、国家の威信をかけた戦いの場となった。
今回、もっとも異彩を放つ選手——H氏。
戦国大名の末裔にして、もと総理大臣。
現在は陶芸家。
自作を抱え、旅立つ。
陶片追放の流れをくむ、陶器五輪の舞台へと……

2010/02/13 (Sat)

#twnovel

風音が雪洞の中まで届く。
足止めされて、もうどれくらいになるのか。
寒さと飢え、そして絶望に思考力まで奪われた。
チョコレートでもあれば——
と、雪洞の天井が崩れ落ちた。
青空を背景に顔を出す片思いの彼女。
「わかったわよ、チョコあげるから、うちの庭で雪山ごっこしないで！」

2010/02/14 (Sun)

#twnovel

見よ、かの上人の唱える念仏が、口から出ては黒き賽となりて、信徒どもの上に降り注ぐ。
信徒はそれを口に入れ、恍惚として、ぼうだの涙。
ほの甘く、またほろ苦し。
西方浄土の味わい。
ちろるちょこ、となむいいける。
ありがたや……
まことに、とうとき、南無ばれんたいん上人さまよ。

2010/02/14 (Sun)

#twnovel

囲まれた。
馬連一家と、息のかかった暴力団員、準構成員。
寝返った若頭以下五十名も混じっている。

「つかみで三百……三百対一」
「三百対二。お前さえよければ」
「お嬢……二十年前の二月十四日。あの日、お嬢のために死のうと心に決めやした」
「馬鹿だね。義理チョコのために……」

2010/02/14 (Sun)

#twnovel

今年のバレンタインデー、つまり今日だ。
運命のいたずらで日曜日だから、女の子に会うチャンスが少ない。
もし、偶然、顔を合わせたら、これはチャンスだ。
もし僕が女で、でくわした相手が男なら、迷わずチョコを差し出すだろうな。
「聞こえるように独りごつと言うの、やめてくれる？」

2010/02/14 (Sun)

#twnovel

駅の名はチョコ。
ちっぽけな無人駅。
しかし、ホームも駅舎も埋もれてしまっている——チョコに。
僕は、線路を覆い隠したチョコの上を歩いてきた。
見渡すかぎり、チョコ。
世界の中心の工場で、際限なく製造され続ける愛情。
その狂気、僕なら受け止められる。
でも、君は首を振るんだ。

2010/02/15 (Mon)

#twnovel

大衆というのは不思議だね。
あんなに熱心に見ているのに、なぜか気がつかない。
いや、承知しているよ——高度な映像技術のことは。
しかしね、あんなふうに我を忘れて一喜一憂するのを見ると、羨望の念さえ覚えるじゃないか。
人類は、未だバンクーバーに到達していないというのに……

2010/02/16 (Tue)

#kaibun

#twnovel

「わしが食べてしまうぞ！」

「事故ね——殺意は？」
「いつ、そのことに気がついたの？」
「今。麻衣のタイツが気に……」
「——と、この訴追はいつさ？」
「猫地蔵！」
「まして、ベタが皺！」

2010/02/18 (Thu)

#kaibun
#twnovel

死の首領も、死の床。
また、自負し、懐かしの仕事人に、戸ごしの死活なし——
藤田まことの死、主水の死……

2010/02/18 (Thu)

#twnovel

くぐもった轟音が、深い地底まで震わせる。
少女は決断を迫られている。
眼前に巨大な鉄塊——巨神兵。
少女の叫び。
「私にこれに乗れと？」
「乗るなら早くしろ。乗らないなら、帰れ！」
言い放つ父。
少女は瞼をきつく閉じ、繰り返す。
「逃げちゃ駄目だ。逃げちゃ駄目だ。逃げちゃ……」

2010/02/19 (Fri)

#kaibun
#twnovel

ラン、ランララ、ランランラ……
今は昔、烏なのに他の是か非か——問う者が駄目出し。
「駄目だが、呑もう」
と、可否。
風の谷のナウシカ。
無は舞い——
ラン、ランララ、ランランラ……

2010/02/19 (Fri)

バンクーバーの銀行姥、そして、逃げる月。(2010/02/21 - 2010/02/28)

#twnovel

思いつめて銀行へ。
モデルガンを出そうとした手に触れる手。
老婦人が微笑んでいる。
「邪魔しないでくれよ」
そのやりとりを見ていた行員が丁寧に声をかけてきて、支店長室に通された。
気がつくと、融資ばなしがまとまっていた。
支店長は言った。
「銀行姥の目に狂いはありませんから」

2010/02/23 (Tue)

#twnovel

軌道昇降機が二桁を越えると、軌道上の人口も増えた。
そこに社会が形成され、同時に裏社会が発生した。
俺達は、そこにうごめく野良犬。
奪い、犯し、殺す。
軌道警察とは猫と鼠の間柄だが、捕まるのはトーシロだけ。
玄人には強い味方がついている。
逃亡支援衛星きさらぎ。
逃げる月だ。

2010/02/23 (Tue)

#twnovel

青春18きっぷが発売されると、そわそわする。
使用期間に入ると、いそいそと駅へ。
はるかな故郷への旅が始まる。
不便な旅をする僕を笑う人もいる。
でも、遠いところへゆくには時間をかけるべきだ。
そろそろ、各駅停車の軌道昇降機の終着駅に着く。
ラグランジュポイントはまだ遠い。

2010/02/23 (Tue)

俺は私立探偵三浦優作。
泣いていた。
「悪いか」
「場違いなパン……」
「は？」
「固茹で、で豊か——ハンパない。ガチ！」
「馬鹿！」
「いるわ。たいてい、泣くさ」
「う……由良」
海。
移転。
立つ。
利子はレオ。

2010/02/23 (Tue)

#twnovel

ついてない、なんてもんじゃない。
どん底。
万策つきて、天に祈った。
すると、曇天から一条の光。
天使が降臨した。
俺は願い事をまくしたてた。
天使は天使のように微笑み、
「では、私の願いを聞いてください」
天使の要請には逆らえない。
俺は天使の願いを叶えなくてはいけなくなった。

2010/02/23 (Tue)

#twnovel

料金不払いで電気が止められて半月。
今夜も、寝るためだけに部屋に帰る。
と、扉の前に若い女。
「ファット・グリッドが適用されました」
と言って、幻のように消えた。
噂には聞いていたが、本当に電気が復旧していた。
スマート・グリッドの逆——不必要な所へ電力供給する反体制運動。

2010/02/26 (Fri)

#twnovel

「フィギュア・スケートは、おかしい。あれがスポーツなら、バレエもスポーツだよ。勝ち負けも不明確だし」

「勝ち負け？」

「総合格闘技にしたらどうかな。まさに氷上の格闘技！」

「危ないよ！」

「なら、にらめっこにしよう！」

「そのころは？」

「表情の格闘技……あれ、滑った？」

2010/02/27 (Sat)

#twnovel

女性の姿が消えた。

女性は潤いをなくし、男性は角がとれた。

中性的な人間が蔓延した。

それでも、男女は惹かれあい、家庭を持つ。

だが、何か足りない。

男も、女も、子供も、満たされない……

そんなお宅に——心の隙間を埋める仮想主婦人格ロボット、“素敵な奥さん”。

絶賛発売中！

2010/02/28 (Sun)

#twnovel

衛星軌道上の社会にも、反体制分子は発生する。

天に唾する破壊活動を繰り返す。

愚かかもしれない。

無意味かもしれない。

だが、信念の戦いに降伏の選択肢はない。

同志の屍を抱え、エアロックを出る。

ステルスモードで漂う。

拾われることを信じて。

逃げ月——逃亡支援衛星きさらぎに。

2010/02/28 (Sun)

#twnovel

あまりにも巨大なガス惑星。

それを取り巻くさらに巨大な環。
遠目には美しいが、岩が浮かんでいるだけだ。
とって、静寂の世界でもない。
独自の活動をする衛星もある。
太陽系最大の間歇泉を吹き上げる衛星も。
まだ誰も知らない——それが、惑星の重力に囚われた宇宙鯨であることを。

2010/02/28 (Sun)

#kaibun
#twnovel

「そこで笑うか？ 来なよ！」
「むきになるな」
「うるさいな！」
「うどん、どう？」
「無い？ 猿！」
唸る。
「何？ キム・ヨナ、帰化！」
「浦和でこそ……」

2010/02/28 (Sun)